

普及指導情報

「低温に伴う技術対策について」

(第10号)

平成30年12月26日

佐城農業改良普及センター佐賀北部振興担当







(表題) 低温に伴う技術対策について

(担当) 佐賀北部農業技術者連絡協議会事務局

本県では、12月28日頃に冬型の気圧配置が強まり、寒気の程度により大荒れとなる恐れがあります。

このため、年末年始における低温に伴う技術対策を別紙のとおり取りまとめましたので、業務の参考にしてください。

12月25日5時 佐賀県の週間天気予報

日付	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土	30 日	31 月
佐賀県 府県天気予報へ	晴 	曇一時雨 	曇 	曇一時雪か雨 	曇 	曇時々晴 	曇時々晴 
降水確率(%)	-/0/0/0	10/50/30/30	30	40	40	30	30
信頼度	/	/	B	B	B	A	A
佐賀	最高(°C)	14	10 (8~12)	6 (4~8)	7 (5~9)	9 (6~12)	10 (7~12)
	最低(°C)	/	3 (0~6)	1 (-2~2)	1 (-1~3)	1 (-1~4)	2 (0~5)
平年値	降水量の合計		最高最低気温				
			最低気温		最高気温		
佐賀	平年並 2 - 10mm		1.9 °C		11.0 °C		

九州北部地方週間天気予報

平成30年12月24日16時35分 福岡管区气象台発表

予報期間 12月25日から12月31日まで

向こう一週間は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷や寒気の影響で曇りの日が多く、期間の中頃に雪や雨の降る所があるでしょう。なお、28日頃は冬型の気圧配置が強まり、寒気の程度によっては大荒れとなるおそれがあります。

最高気温、最低気温は共に、期間のはじめは平年並か平年より高いでしょう。その後は平年並か平年より低く、かなり低い所があるでしょう。

降水量は、平年並か平年より少ない見込みです。

海上は、波が高い日が多いでしょう。

1. 園芸用施設（野菜・花き共通）

〔寒害対策〕

- 1) 無加温の施設では被覆資材を活用し、気密性を高める工夫を行い、保温性を高める。
- 2) 加温機の保守・点検や燃料の確認を行う。また、隙間風が入らないように外張りを点検し、保温資材を活用することにより燃油の節減に努める。
- 3) 必要に応じて応急的に家庭用暖房機を活用するなど、寒害の回避に努める。この場合、火災や不完全燃焼に注意する。
- 4) 灌水用の配管やポンプ等については、事前に凍結防止対策に努める。
- 5) 凍害が発生している場合、傷んだ部分からの病害の発生を防ぐため予防防除を行う。
- 6) ホウレンソウ等、被害が発生した場合は生産計画を見直し、可能であれば新たな計画に基づき再播種を行う。
- 7) イチゴでは凍害を受けた成熟果や幼果(幼花)は摘果(摘花)し、草勢の低下を防ぐ。摘果等でほとんどの果実が無くなる株へはジベレリンを散布する等して果房の抽出を促進する。

〔積雪対策〕

- 1) ハウスに積雪し始める前に、ハウス天井部に内部から支柱を立て補強に努める。
- 2) 積雪し始めたら身の安全に留意しながら、ハウスの屋根雪やサイドなど、全体を均等に除雪する。
- 3) 加温機がある施設では加温機を稼働させ、室温を高めて屋根雪の滑落を促進させる。
- 4) 無加温の施設では、日中、二重カーテン等を開放し、室温を高め、地熱の放射による屋根雪の滑落を促進させる。
- 5) 除雪が追い付かず、倒壊の危険が迫っている場合は、外張りハウスビニールを切断して雪をハウス内に落とす。なお、ハウス内に入りビニールを切断する場合には、複数人で入りヘルメットの着用等の安全対策を行い落雪や倒壊に細心の注意を払い作業を行う。
- 6) ハウスの屋根に積雪がある場合、施設倒壊の恐れがあるため、中に入らない。

〔積雪によるハウス倒壊後の対策〕

- 1) 倒壊ハウスの修復
ハウスを取り除き小トンネルによって保温した後にハウスを建てる。
倒壊したハウスは速やかに修復する。
- 2) 被害施設の管理
応急対策で小型トンネルを設置したところは、特に夜間の保温を十分に行うとともに、日中は光線の透過を良くし光合成を促進する。

2. 露地野菜

〔寒害対策〕

- 1) 不織布等をべたがけして、凍霜害防止に努める。

- 2) レタス等では結球成熟期になると結球葉が被害を受けやすいので、肥切れさせない等の対策をとる。
- 3) 凍霜害を受けた場合は、直射日光が当たらないように不織布等で日除けを行い、2~3日間草勢の回復に努める。
- 4) 凍傷で茎葉が傷んだ部分から細菌病や灰色カビ病、菌核病等が侵入しやすくなる。雪が溶けしだい出来るだけ早く予防防除を行う。

[積雪による事後対策]

- 1) トンネルが潰れた場合は速やかに修復するとともに、草勢低下や病害発生が懸念されるため、液肥による草勢の回復と病害の予防防除に努める。

3. 花き

- 1) 降雪後の急激な天候回復によって花や葉に日焼けが生じることがあるため、温度管理に注意する。
- 2) 日照不足による草勢低下や病害発生が懸念されるため、液肥や予防散布により草勢回復に努める。